

## 「2022年度ベトナム国家大学ハノイ校スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学理学部2年 筒井涼輔

## ① 学習成果

今回の派遣の前は、ただ漠然と、「留学をしてみたい、国際交流をしてみたい、面白そう」といった認識であった。今まで、こういった国を越えた交流をする機会がなく、なんとなくの憧れは抱けど、なんとなく、のままであった。

今回の派遣の後ではより具体的に、そして強く留学や国際交流に関心を抱くようになった。実際に体験することは、かけがえのない経験であった。経験するからこそ、よりはっきりと、国際交流の良さ、に気がつけた。

## ② 海外での経験

海外での経験については、海外（ベトナム）を見ることで、「日本」を相対化し、新たな視点で自国を見つめ直すことができた。特に、ちょっとした文化や価値観で、これを感じた。

## ③ プログラム内容

プログラム内容については、ULIS と USSH 両方の学生と交流できたことは、非常に良かったと思う。同じ日本語を学んでいる学生でも、大学によって生徒の傾向はあり、一つのプロジェクトで、様々な学生と交流できた点はいい点であったと思う。一方で、二点、課題もあったと思う。一つ目は、授業の量、二つ目は、予定の順番である。

まず、前者に関して、授業が多かった。特に、ベトナムの教員の講義は、内容は面白かったし、いい授業であったが、日本でも受けることができるのではないか。ベトナムである必要性は小さいと感じた。授業が多いことの弊害は、ベトナムの学生との交流の機会の減少にある。ベトナムの学生らも、京大生は授業が多すぎて、交流できる機会が少ない、といていた。

次に、後者について、ベトナム語授業は前半にやるべきで、また、2週目の後に、全休の日があったほうが良かった。ベトナムにあと数日しかないのに、ベトナム語を習っても使う機会がない。なら、最初の数日に詰め込み、残りの滞在期間で、実戦をしたほうがいい。また、私たちは1週目に USSH、2週目に ULIS にいた。1週目の休日には、USSHの方が仲良かったため、USSHのみんなと遊んだ。しかし、USSHの学生とは2週目に特に仲良くなったが、その後、一緒に交流できる機会が少なかった。

## ④ 進路への影響

進路への影響については、私は元々欧米の院に進むことを考えていた。ヨーロッパ中心主義的な考えが無意識に根付いていたのかもしれない。しかし、今回、ベトナム学生との交流で、彼女らの優秀さ、ベトナムの将来性、活力、成長を目の当たりにして、欧米以外の国についても、留学や院進を検討するようになった。